



地域で安心して暮らすために 成年後見制度と終身サポート事業



▲「成年後見制度とは?地域で安心して暮らすために」2025年11月12日。やない克子(左)と山崎まりも

練馬区社会福祉協議会(以下、社協)権利擁護センター「ほっとサポートねりま」の方を講師に迎え、将来の「何となくの不安」を解消するために成年後見制度について学習会を開催。認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な方々を支援するのが成年後見制度です。動産や預貯金などの財産管理、介護などのサービスや施設への入所に関する契約など、ご本人の意思を尊重した支援(意思決定支援)を社協が行っています。

練馬区、権利擁護支援の充実へ

区は4月から、高齢者など社会的な孤立による不安を解消するため、身寄りがない高齢者などへの支援策として「ねりま架け橋プロジェクト～ひとりにしない～」を開始します。

緊急連絡先や希望する医療行為などの情報(他には、遺言書やエンディングノートの保管場所、かかりつけ医、お墓の場所、終活に関する生前契約先など)を社協に無料で登録。判断能力の低下や死亡時には、事前に指定した親族や病院などからの照会によって情報を開示する

しくみです。

また、日常の見守りなどの生活支援、入院・入所時等の手続き支援、死後事務支援をパッケージで提供する「終身サポート事業～そなえ・あんしん365～」を開始。民間事業者との連携などで相談者のニーズや資力に応じた支援につなげるというものです。地域で安心して暮らすしくみとなるようはたらきかけていきます。

やない克子

原発ありきのエネルギー政策にNO!!



▲「戦争はしない原発はいらない」を掲げ、「戦争ではなく平和なくらし!ねりま集会&パレード」に参加。2025年5月3日。左から山崎まりも、君垣圭子、やない克子

東日本大震災による東京電力福島第一原発事故から今年の3月11日で15年。

私たちは原発事故が人々の生活を一瞬にして奪ってしまうことを目の当たりにしました。

そして「放射線被ばく」という見えないものへの恐怖は東京で暮らす私たちの中でも広がり、原発に頼らない社会への転

換を求める声が高まりました。

この15年、避難した方たちの中には、避難先での誹謗中傷や偏見で孤立したり、家族離れ離れに暮らすことを余儀なくされた結局そのまま別れてしまったなど、生活が一変した人もいます。そのような状況で上がる「原発さえなければ」の声はしっかり受け止めなければなりません。

しかしその声を受け止めることなく、今年1月、東京電力は新潟県の柏崎刈羽原発の再稼働に踏み切ったものの不具合が生じて一旦停止。国と新潟県は再稼働にあたり、重大な事故が起きた時の6方向への避難道路の整備を検討中とのことですが、まだ検討段階です。不具合が生じる、道路整備ができていない、このような状況で「安全性の確保」は信用できず、再稼働させるということ自体、住民の命をないがしろにしているとしか思えません。国は原発に頼らないエネルギー政策に転換すべきです。

君垣圭子

●インフォメーション●

毎月9日は9条スタンディング

「戦争はしない、原発はいらない」の横断幕を掲げ、憲法9条のアピールをしています。

時間:12時~13時

場所:練馬駅南口付近

練馬・生活者ネットワークのルール

1. 議員を職業化せず、特権化しないために、議員はローテーション(交代)します。
2. 議員報酬は市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開します。
3. 選挙は市民のカンパとボランティアで行います。

◎カンパを募集しています。

カンパ振込先【郵便振替】00100-6-398010 練馬生活者ネットワーク